

# 楽しかった修学旅行！

めあて

集団行動を心がけ今まで学んできた学習を生かして平和の大切さや様々な文化を学ぼう。

**6年1組 5班**

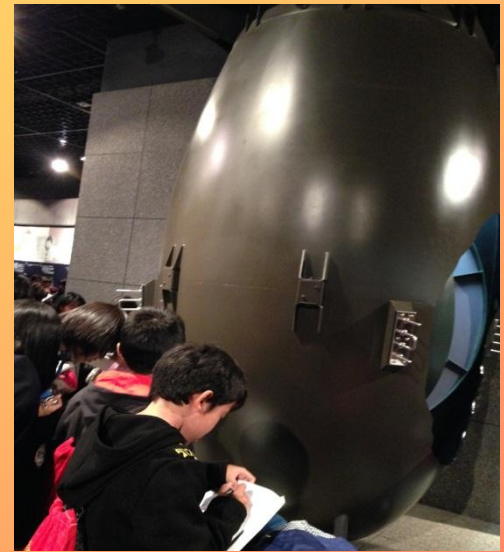
# 原爆資料館

## 原子爆弾

原子爆弾は、約4000度、また、1キロ離れていても、1800度もあります。原子爆弾は、プルトニウムやウランなどの種類がありました。

## 原爆資料館を見て

僕は、原爆資料館をみてすごいなあと、戦争中などの様子や写真などを見ることで戦争は人の命を奪い、家族の命も奪ってしまった。とても悲しく思いました。



K・K

# 原爆落下中心地

さくれつした原爆



68年前、この石柱の上、高度約9600メートルに原爆が落下しました。大小の工場や民家の密集する上空約5000メートルでさくれつしたそうです。また死者の65%が子ども、女子、老人だったそうです。この石柱には、原爆死ぼつ者名簿をマイクロフィルム化したものが納められていて、ここに162083人の人がねむっています。ぼくは、このような悲さんな原爆は、二度とおきては、いけないといおもいます。

D. N

# 平和記念公園

## 平和の泉・平和祈念像 平和への人々の思い

平和記念公園にある、平和の泉と、平和祈念像には、たくさんの人の思いがこめられています。平和の泉には、水を求めて亡くなった人々のめい福を祈る思いが、平和祈念像は、天に指した右手に原ばくのきょういを、水にのばした左手に平和の大切さを、そして、軽く閉じた目に原ばくの犠牲者の方々の御冥福を表現して、戦争のおそろしさ・平和の大切さを伝えています。

そして、現在もその思いは変わらず、花や、鶴が全国から集まっていて平和を、思う人々の気持ちが、伝わりました。私は、平和の大切さ、戦争のおそろしさを学び、これから戦争やっつけたいと思いません。また、平和な世界をつくらうと人々の思いを受けついで、戦争のない平和な世界を身近なところから築いていこうと思えました。平和な世界が大切だと伝えるには、戦争は人々の、人生と生命をうばうおそろしいものだ伝えていかなければならないと思います。



# 一本柱の鳥居・山王神社

## 左半分だけ残った鳥居

これは、1924（大正13）年に建立された山王神社の鳥居です。爆風で飛ばされて左半分だけ残っています。



## 〈感想〉

爆風で左半分だけになった鳥居が、今も倒れずに立っているのがすごいと思いました。これからも、守られていって原爆の恐ろしさや平和の大切さを伝えてほしいと思います。

## 爆風で崩壊した鳥居

山王神社の参道には、一の鳥居から四の鳥居までありましたが、1954（昭和20）年8月9日の原爆投下により、爆風に対して平行に立っていた鳥居は崩壊してしまいました。

# 如己堂

## 如己堂について

如己堂は、たった2畳しかなくて、永井博士は、病気をもちながらも、このような小さな家で住んでいました。昭和21年1946年11月に、病状が悪化し、寝たきりとなっていました。昭和23(1946)年3月に、この如己堂が建ち、移り住まれたそうです。

## 如己堂を見た感想

私は、修学旅行で如己堂を見ました。そうしたら、思ったよりも、小さな家で、本当に、たたみ2畳で、そこですごいなあと思いました。永井博士の生涯を知ること、永原爆の悲惨さや平和の大切さを改めて感じました。



# 山里小学校

## ■山里小学校とは

山里小学校は1874年10月15日に設立。長崎市の橋口町にある公立小学校で、あの子らの碑と裏手には防空壕がある。

## ■裏手にある防空壕

第2次世界大戦の終わりが近づくと敵の飛行機が夜も昼も飛んできては空から爆弾を落とす日が多くなりました。その恐ろしい空襲から命を守るため空襲の時、避難する防空壕があちこちに掘られました。山里小学校にも18箇所に防空壕が掘られ、子供たちや近所の人たちの避難場所として建っていました。

僕は、もし明日空襲があったら、今の時代は防空壕がないのでどこに隠ればいいのかと思いました。戦争は、とてもこわいと思いました。

